

## 巻頭言

お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要第 24 号をお届けします。

本号には原著論文 10 本、活動報告 2 本が掲載されています。まず、原著論文の本数が 2 桁に達したのは数年ぶりです、これは大変嬉しいことです。また、数だけでなく、事例論文が投稿されたのも久々ですし、博士課程前期 1 年生も共著者となった論考もあり、それぞれの論文に大学院生の意欲的なチャレンジが詰まっています。センター活動報告も、従来の短くシンプルなものから、より実際の活動の現状や今後の課題が明確に伝わる、読み応えのある報告にリニューアルされました。これも大学院生が自発的に発案し、分担して書き上げたものです。大学院生が主体的に運営に携わってきた当センターの特長が新しい形で示されたと言えます。これらの新しい試みが実現した背景には、今年度紀要係スタッフによるこまやかなサポートがありました。

センターのこの 1 年を振り返ると、昨年度末には前センター長の岩壁茂先生のご転出にあたり、「第 1 回公開セミナー」にて、お茶大での実質的な最終講義をしていただきました。学内外の多くの方が参加され、温かい交流の時間となりました。記念すべきこの会の様子は、本号のセミナー報告に詳しく記録されています。

2022 年 4 月には 15 人の博士前期課程 1 年生、3 人の博士後期課程 1 年生が新しくスタッフに加わりました。また、上地彩香さんと松本晃さんが教務補佐員として、小松実知子さんが AA (アカデミック・アシスタント) として着任されました。上地さんと松本さんは、非常勤相談員としてインタークや継続面接を担当し、スーパーヴィジョン等を通して大学院生の臨床指導に当たってくださっています。小松さんは会計事務を担当され、新しく効率的な運営システムづくりを担ってくださっています。

昨年度から新規相談申し込みが増加傾向にあったのですが、今年度に入ってから増え続け、そのままでは安定した運営が危ぶまれたことから、7 月末に新規受付を一時停止するに至りました。当センターでの心理相談に期待してお申し込みをいただくのは大変有難いことですので、苦渋の決断でしたし、これを境に申し込みが減ってしまうのではないかと心配もしま

したが、1 カ月後に受付再開し、それ以降も安定して新規相談申込みをいただいています。

10 月には平野真理先生が着任され、発達臨床心理学コースおよび当センターは教員 5 人体制に戻りました。スタッフが充実し、臨床・教育・研究活動をじっくりと展開していくための基盤が整ったように思います。2023 年 3 月には第 2 回公開セミナーを開催予定です。

このような様々な出来事を経て、本号は完成しました。お読みくださった皆様には、ぜひ感想をお寄せいただき、引き続きセンター活動へのご指導ご協力をいただければ幸いです。

心理臨床相談センター長 山田美穂